

労山大阪・兵庫 50 周年記念ヒマラヤ登山隊

大杖哲司

登山隊長 メラピーク KOBE / 兵庫

6080m 峰

西北ネパール

頂上へのルート

大阪と兵庫の両連盟が 50 周年を記念して合同でヒマラヤ登山を行なった。8 月から 9 月にかけてネパール最西部のフムラに入り、6080m 峰に登頂した。

上の雪庇が 6080 m の頂上

隊員 2 人、6080 m 峰のコルにて

ヒマラヤ へ登頂!!

計画にあたって岩と雪の未踏の山を検討した。そしてフムラの知られていない山が選ばれた。私はフムラに過去 2 回の登山に行き土地勘が少しあったが、対象となる山の情報はあまり得ていなかった。行ってみたいとどのような山なのかわからなかった。

ニヤルレク西峰での試登

8 月 25 日 ニン・コーラの氷河末端のモレーン、4900m に BC を設置する。まずは BC から見える約 6150m の美しい尖峰ニヤルレク西峰に試登することにした。

8 月 31 日 西峰のルート工作に行ったシェルパが帰ってきた。サー

頂上にて



- 8/8 車でカトマンズ発・ネパールガンジ
- 8/11 飛行機でシミコット
- 8/13 シミコット空港発
- 8/25 BC
- 8/28 西峰の試登開始
- 8/31 試登終了
- 9/3 6080m 峰のハイキャンプへ荷上 9/4 ハイキャンプ入り
- 9/5 登頂
- 9/6 撤収作業
- 9/7 BC へ下山
- 9/8 BC 発
- 9/13 シミコット空港
- 9/14 飛行機でシミコット発・ネパールガンジ經由車でタンセン
- 9/15 ポカラ
- 9/16 カトマンズ



ダーが、「氷の壁を登って尾根に出ました。そこから上は岩と氷の状態が悪くて危険です。隊長と一緒に行って見てください」とのこと。見に行くのは日帰りでは無理である。その日数が惜しいので、それ以上の試登は中止することにした。

まだ見ぬ6080m峰へ

9月1日 私は隣の谷に未知の山を見に行った。ウマに乗り何度も渡渉してたどり着いたが視界が悪く山

は見えなかった。この日、力を持て余した隊員3人は無名峰(5882m)に登ってきた。

BC生活も一週間が過ぎていた。すでに高度順応もできているので上部での活動は大丈夫である。隊員会議で検討した結果、6080m峰の登頂に残る日数をあてることにした。その山はBC付近からは見えな

い。地図と衛星画像の記憶を頼りに判断して雪氷の多い北面にルートをとることにした。シェルパは地形図があまり読めないが絵にかいて説明すると体力と勘の良さを発揮してよくやってくれた。

ついに登頂

9月5日午前4時30分にハイ

キャンプを後にして星空の下を登っていく。山やまが朝日で明るくなる頃に狭い谷水河に入る。谷から広い雪斜面に出て尾根に向けてフィック

スロープをたどるが、頂上に続く稜線は登攀困難な岩稜だった。尾根通しには行けない。岩稜の下、北面のミックス帯にロープを張りトラバースする。浮石と鋭い岩角に緊張する。しかし展望は良くなりチベットの山・ナムナニが見える。トラバースを終えるとコルで一息つくがそこには岩壁が待っていた。壁の10mほどは傾斜が強く難易度は3級だった。ロープは中間支点をとっていないので登高器でフォローするのは技術的には容易だ。しかし標高6000mなので呼吸が荒くなり日本でのクライミングのようにはいかない。これも浮石が多いので気をつかう。周囲はすばらしい景色だったがそれを楽しむ余裕はない。ここまでルート工

ミックス帯のトラバース

期間：2017.8.4～9.27

山域：ネパール・フムラ地区

6080m 峰の北稜ルート

目的：未踏の山に登る

隊員氏名（年齢・任務・所属会）：

大杖哲司（62・隊長・メラピーク KOBE / 兵庫）

中川和道（67・登攀隊長・OWCC / 大阪）

前田安助（68・食糧・淀屋橋勤労者山岳会 / 大阪）

栗田昭夫（67・会計・大阪ぼっぼ会、相模アルパインクラブ）

源田定之（61・記録・神戸中央山の会）

富永公夫（61・電源・山の会カラシタルシ / 大阪）

山本美雪（49・医療・甲山勤労者山岳会 / 兵庫）

輸送：馬とラバ30頭をシミヨットで雇用

ハイポーター：クライミングシェルパを4人雇用

結果：隊員6人が登頂。中川隊員は体調不良により途中帰国

天気概要：西北ネパールは8月後半になれば晴天率が高いのが通例だが、この年はすっきりしない天気が多かった

現地エージェント：ポチポチトレック

総費用：630万円（個人負担90万円）

その他：報告書を2018年春に発行予定

連絡先：qqkg45360@zeus.eonet.ne.jp（大杖）

ハイキャンプ風景



テント場は放牧場



ガレ場通過に時間がかかる。ようやく雪稜に登り返してアンザイレンで歩く間もなく頂上だった。一番高い所は雪がなく岩が露出していた。この日、頂は初めて人によって踏まれた。ハイキャンプから頂上往復に13時間を要した。

おわりに

フムラ北部には7000m以上の高峰がなく不便さも手伝って注目さ

れにくい。ネパールの中でも情報が少なく住民も登山隊にあまり慣れていない。登山者の多いほかの地域に比べると地味かもしれない。その代わり美しく豊かな自然のなかで登山もキャラバンも存分に楽しめる。今回は寄せ集めの隊だったが高所登山経験者が多かったので成果が得られたと思う。成果は得られたが、国内で全員参加のトレーニングをもっとしておくべきだったと反省している。